

令和6年度 白川郷学園 音楽科研究構想

研究主題

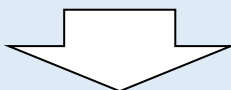
学びのひとりだちを目指す授業の創造

音楽科で願う子どもの姿

音楽的な見方・考え方（音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形作っている要素とその働き
の視点で捉えること）を働かせ、自分の考えや学習の見通しをもち、仲間と協働しながら主体的に音楽活
動に取り組み、自分の想いを表現しようとする姿。

児童・生徒の実態

- どの分野においても主体的に学習に取り組むことができる。また、仲間と協働して学習を進めること
ができる。
- ▲ 現状を把握し、自分たちで課題を見つけ出すことに弱さが見られる。また、自分たちで課題に対し
た解決策を見出す経験が少ない。



研究内容

○9年間の学び方の系統性のもと、学びのひとりだちを目指す授業の工夫

(1) 明確なめあてや課題意識をもてる導入

- ・単元の見通しをもち、本時での課題を考えることができる指導計画
- ・今までの学習を通して、どのような解決方法を用いるとよいのか考える、見通しの時間の確保

(2) 課題解決の具体的な見通しをもち、多様な学び方で試行錯誤できる展開

- ・今までの学びと比較し、課題追究の方法を考えることができる ICT の活用。
- ・それぞれの課題に応じた、練習の仕方や知りたいことを追究できる資料の提示。

(3) 自らの変容や学び方の自覚を促し、次の学びに生かす終末

- ・どのような学び方が変容に結びついたのか考える振り返りの時間の位置付け
- ・個の変容やパートの変容を実感できる場の設定

※(1)～(3)の手立てとしての白川村の地域素材の活用

※研究の土台としての基礎学力の定着を図る「みがき」の時間の充実